

2023年4月3日

グループホームこころくばり  
管理者 杉浦 光亮 様

日本福祉大学福祉経営学部  
中島民恵子

地域密着型サービス評価に関しまして、拝読いたしました。管理者の変更等に伴いケア提供体制の安定化が難しい状況であるのか、全体的に自己評価の結果が昨年度と比較して低いことが読み取れました。事業所としてのケア実践に真摯に向き合っているからこそその結果だと思しますので、ぜひ「C.あまりできていない」や「D.ほとんどできていない」となっている項目に1つずつ取り組んで頂ければと思います。今年度は2021年度の評価結果との比較の観点も含め、以下の通りいくつかお伝え致します。

・2021年度と同様に、新型コロナウイルス感染症流行の影響で、地域とつきあいや戸外への外出や交流等に関連する項目（No2,45,48）が十分に行えていないことは残念な状況ですが、「No20.地域資源との協働」では改善がみられており、可能な限り取り組まれている様子は分かりました。全国的に多くの事業所が地域との関わりなどについて試行錯誤されていますが、新型コロナウイルスの5類への移行も予定されていますので、次年度は改めて地域との関係を再構築すべく1つ1つ取り組まれることが期待されます。全国グループホーム協会が2019年に示した「認知症グループホームにおける地域貢献尺度（事業所評価）」「認知症グループホームにおける地域交流尺度（入居者評価）」（<https://www.ghkyo.or.jp/archives/11512>）なども日々の振り返りや実践のヒントとして活用して頂くことも良いかと思えます。

・今回の結果で、「No 11. 就業環境の整備」や「No 12.職員を育てる取り組み」といったグループホームで働く職員の支援が十分に取組むことが難しい状況が示されました。昨年度も就業環境の整備は課題としてあげて頂いておりましたので、今後の改善に取り組んで頂くことがさらに期待されます。職員が守られた環境でケアに従事することは、利用者の暮らしの向上においても重要です。特に、就業環境の整備は事業所単位での取り組みでは難しいこともあると思えますので、法人全体での取り組みが期待されます。

・「No22 入退院時の医療機関との協働」「No23 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援」に関して、昨年度と比較すると実践が難しい状況であることが読み取れました。認知所の人の入院などはリロケーションダメージも大きいことが多いため、そういった状況を

いかに改善していくかはとても重要な課題となります。また、ACPについては既にご存知かとも思いますが安城市で2021年に「～専門職のためのACP マニュアル～」

(<https://ptl.ijj-renrakucho.jp/anjo/assets/files/58944ed74af3dfa0d2319395a4c379e10dd587c0.pdf>)が示されています。これらに示されている内容をもとにご本人やご家族と話す機会をもって頂くことも1つの方法かもしれません。すぐに全ての利用者の方に行くことは難しいかもしれませんので、お1人ずつ時期を決めて取り組まれることも良いかと思えます。今後の取り組みに期待しています。